

網走沖で得られたクラカケアザラシ *Histriophoca fasciata*の胎児

宇仁義和

099-4113 斜里町本町 49 番地, 斜里町立知床博物館

A record of ribbon seal *Histriophoca fasciata* fetus off Abashiri, Hokkaido.

UNI Yoshikazu

Shiretoko Museum, 49Honmachi, Shari, Hokkaido, Japan 099-4113. unisan@m5.dion.ne.jp

A female ribbon seal *Histriophoca fasciata* were netted by a salmon set net off Abashiri, along the Sea of Okhotsk coast of Hokkaido, 44°08' N, 144°18' E, 25th October 2001. Where is 2.5km from the coast and 20m in depth. The female was pregnant with a fetus, that was female, BW770g, BL27.5cm, with remarkable peculiar color pattern on its skin. These two seals are deposited in the Shiretoko Museum, Shari, Hokkaido.

資料と採集地

2001年10月25日月曜日, 網走市の北方約5kmにある能取岬東側のサケ定置網(網さけ定第4号)の沖網(定置網の最も沖側の部分)からクラカケアザラシのメス成獣 *Histriophoca fasciata* が水揚げされた(北緯44°08', 東経144°18'). 沖網の位置は, 岸からの距離約2.5km, 水深は約20mである. 前日は日曜日で, 網起こしは土曜日の23日朝から行われておらず, 混獲されたのは23日午前から25日早朝までの間と考えられる. メスの外部計測値は, 体長146cm, 全長170cm, 胸囲124cm, 胴囲108cm, 胸部の皮下脂肪はもっとも厚いところで約6cmであった. 体重は計測しなかった. また, 胃内容物は観察されなかった.

胎児は子宮から取り出した20分後に計測し, 肉眼での観察を行った. 性別はメス, 体重770g, 全長32.5cm, 体長27.5cm, 胸囲23.4cm, 胴囲19.7cmであった. 体色は褐色を主としていたが, 後頭部から後頸部を経て腰までの背の中央部は赤みがかかった白色で, 白色の部分は頸部を一周していたほか腰部でも次第に細くなる帯状となり腹部中央近くまで達していた(ただし頸部は内出血を起こしていたため写真では白色部分が判然としない). (写真1). 体表全体を覆う体毛は観察されなかったが, まゆ, あごひげ, くちひげが観察された. 標本はホルマリン液浸標本として斜里町立知床博物館に保存されている(標本番号1689).

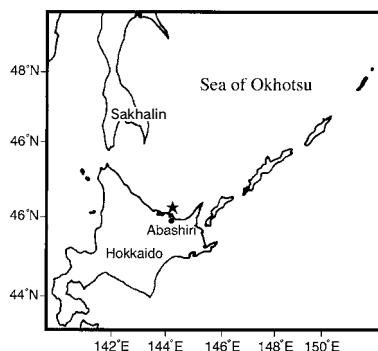


図1. 網走市能取岬沖で得られたクラカケアザラシの妊娠メスと胎児の捕獲場所(★). Fig.1. Location of a pregnant female ribbon seal and fetus(★), off Notoro cape, Abashiri, Hokkaido.

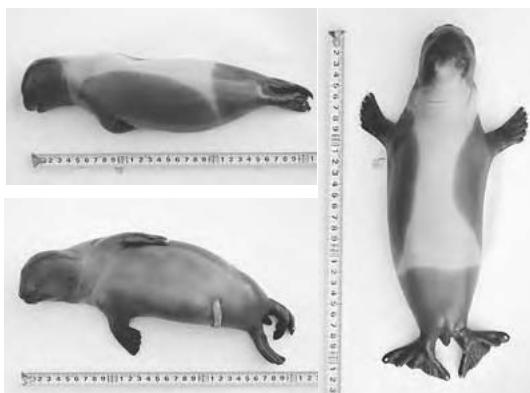


写真1. 網走市能取岬沿岸で捕獲されたクラカケアザラシの胎児(体長27.5cm, 体重770g). 左上: 左側面, 左下: 腹面, 右: 背面. Plate 1. fetus of ribbon seal, BL27.5cm, BW 770g, taken off Notoro cape, Abashiri, Hokkaido. Above left: ateral view (left side), below left: ventral view, right: dosal view.

若干の考察

クラカケアザラシは、ベーリング海とオホーツク海をおもな分布域としチュクチ海や間宮海峡にも生息する。晩冬から初夏にかけては海水とともにあるが、晩夏から秋の居場所はよくわかっていない。沿岸に上陸しないことから、沖合で過ごすと推測され、単独性が強い (Burns 1981)。オホーツク海では5～6月に流水とともにサハリン東岸に現れ、分布辺縁部での捕獲事例は、色丹島沖で6月下旬、厚岸沖で9月20日に捕獲された例がある (犬飼1942)。アザラシ猟船での観察では、サハリン東岸のアニワ湾沖で5月中旬に多く捕獲された (Naito & Konno 1979)。流水期の根室海峡ではしばしば観察される (宇野・山中 1988)。また、オホーツク海の個体群は南北に2つに別れ、南部の個体群はオホーツク海盆の深海上の海水を繁殖地としており、大陸棚の氷上で繁殖する他の繁殖群とは異なった生態と形態の特徴を見せる (Fedoseev 2002)。沖合に生息するため羅網する個体は少なく、近年は科学的知見がない (和田 1997)。戦前には犬飼哲夫による報告があり (犬飼1940, 1942; Inukai 1940)、クラカケアザラシの命名は1924年に岸田久吉によってなされた (犬飼 1940)。

新生児の出生は4月3日から5月10日にかけて、多くは4月5～15日に起こり、おおよその大きさは10.5kg, 86cm (Burns 1981)、オホーツク海での繁殖期は3月で出生時の体重は約10kg、メスは出産後の4月から5月にかけて交尾し、約2カ月後に着床する (Tikhomirov 1971)。出生児は体重6～10kg, 73～98cmである (Fedoseev 2002)。

以上の報告からすると、今回捕獲された妊娠メスは沿岸2.5kmと岸近くの浅海域のサケ定置で羅網しており、同種が外洋性とされることやこれまでの羅網状況を考えると特異的な事例と考えられる。10月下旬に得られたので、胎児は着床後4～5カ月と推測されるが、計測値との整合性については確認していない。

クラカケアザラシの毛皮模様の形成図式を考察したNaito & Oshima (1976) は、肩から背にかけて形成される楕形模様は基礎的な色素沈着であり、明るい下地を持った祖先形態にさかのぼると推測した。今回得られた胎児は、肩から背にかけての部位は白色であり色素定着が見られなかった。楕形

模様の形成は、より成長した段階で起こると考えられた。

謝辞

小林耕一網走漁業協同組合総務部長には情報提供と資料収集の手配に特段のご配慮をいただきました。お礼申し上げます。

引用文献

- Burns J. J. 1981. Ribbon Seal *Phoca fasciata* Zimmermann, 1783. In: Ridgway, S. H. & Harrison, R. J. (eds.), Handbook of marine mammals Vol.2. pp.89-109. Academic Press Inc., Ontario Florida.
- Fedoseev G. 2002. Ribbon seal. In: Perrin W. F., Wursig B. & Thewissen J. G. M. (eds.), Encyclopedia of marine mammals. pp.1027-1030. Academic Press, Ontario.
- Inukai T. 1940. A preliminary note on the ribbon seal, *Histiophoca fasciata* (Zimm.) Gill, from the western of Saghalien. J. Fac. Sci. Hokkaido Imperial Univ. Series6, 7(3): 299-303.
- 犬飼哲夫. 1940. 樺太の所謂クラカケアザラシ (一名リボンアザラシ) に就いて. 植物及動物 8(11).
- 犬飼哲夫. 1942. 我が北洋の海豹 (アザラシ) 1. 植物及動物10(10) : 37-42.
- Naito Y. & Oshima M. 1976. The variation in the development of pelage of the ribbon seal with reference to the systematics. Sci. Rep. whales Res. Inst. 28: 187-197.
- Naito Y. & Konno S. 1979. The post-breeding distributions of ice-breeding harbour seal (*Phoca largha*) & ribbon seal (*Phoca fasciata*) in the southern sea of Okhotsk. Sci. Rep. whales Res. Inst.,31: 105-119.
- Tikhomirov. 1971. Body growth & development of reproductive organs of the North Pacific Phocids. pp213-241. In: Pinnipeds of the North Pacific. Keter Press, Jerusalem. (和田昭彦・島崎健二. 1996. クラカケアザラシ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (3). pp.302-305. 日本水産資源保護協会. から引用した)
- 宇野裕之・山中正実. 1988. 鰭脚類. 大森司紀之・中川元 (編). 知床の動物. pp225-248. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 和田昭彦. 1997. クラカケアザラシ. 日本哺乳学会編. レッドデータ日本の哺乳類. pp121-122. 文一総合出版, 東京.